

2026 年度

一般社団法人 日本作物学会 会員総会資料 (2026 年 3 月 28 日 高崎健康福祉大学)

一般社団法人 日本作物学会 会員総会次第

1. 会長挨拶
2. 2025 年度会務報告
3. 2025 年度会計報告
4. 2025 年度会計監査報告
5. オンライン講演要旨作成システムワーキンググループ新設
6. 名誉会員の承認
7. 会長挨拶
8. 2026 年度事業計画報告
9. 2026 年度予算報告

一般社団法人 日本作物学会 会員総会資料目次

1. 2025 年度会務報告
2. 2025 年度会計報告
3. 2025 年度会計監査報告
4. オンライン講演要旨作成システムワーキンググループ新設
5. 名誉会員の承認
6. 2026 年度事業計画報告
7. 2026 年度予算報告

1. 2024 年度会務報告

1 幹事会

- (1) 2025 年 2 月 15 日に 2024 年度第 2 回幹事会がオンライン会議で開催された。
- (2) 2025 年 7 月 19 日に 2025 年度第 1 回幹事会がオンライン会議で開催された。

2 代議員総会

- (1) 2025 年 3 月 8 日に定時代議員総会がオンライン会議で開催された。
- (2) 2025 年 8 月 30 日に臨時代議員総会がオンライン会議で開催された。

3 会員総会

2025 年 3 月 28 日に日本大学生物資源科学部において開催された。

4 講演会

- (1) 第 259 回講演会が 2025 年 3 月 28 日・29 日に日本大学で開催された。
- (2) 第 260 回講演会が 2025 年 9 月 21 日・22 日に新潟大学で開催された。

5 会員数および入退会等状況

会員入・退会状況及び会員数								2025年12月31日現在	
	正会員					団体会員	賛助会員	名誉会員	合計
	一般会員	学生会員	海外会員	終身会員	小計				
2024年度末	748	239	16	34	1,037	72	8	20	1,137
2025年度入会	36	97	3	0	136	0	0	2	138
2025年度退会	35	80	1	2	118	1	0	0	119
2025年度末	749	256	18	32	1,055	71	8	22	1,156
増減	1	17	2	▲ 2	18	▲ 1	0	2	19

6 出版部（部長 新田洋司 氏）

会議等で検討・確認をし、以下のように実施した。おもな点は下記のとおり。

- (1) 出版部企画「農作物のひみつ 毎日の食事が楽しくなる、おもしろ雑学」を刊行した。
- (2) 「作物栽培大系」（朝倉書店）および「雑穀の百科事典」について

7 和文誌編集委員会（委員長 青木直大 氏）

- (1) 投稿論文の審査，日本作物学会紀事第 94 巻（第 1～4 号）の刊行。
- (2) 論文賞候補論文の推薦。
- (3) 編集委員会をオンラインで開催
- (4) 100 周年記念総説集について検討
- (5) オンライン審査システムを 2026 年 1 月 1 日より運用開始

8 英文誌編集委員会（委員長 柏木純一 氏）

- (1) 投稿論文の審査，Plant Production Science 第 28 巻（第 1～4 号）の刊行。
- (2) 論文賞候補論文の推薦
- (3) 9 月 21 日に，編集委員会を対面開催した。
- (4) 100 周年記念レビュー出版の準備を行った。

9 学会賞選考委員会

- (1) 2026 年度日本作物学会賞（第 70 回），日本作物学会研究奨励賞（第 30 回），日本作物学会論文賞（第 23 回），
 - (2) 日本作物学会第 259 回、第 260 回講演会優秀発表賞
 - (3) 令和 8 年度日本農学賞候補者，その他の賞の候補者の推薦
- 日本作物学会賞（第 70 回）

- 1) 農家圃場における作物生産性評価に関する情報収集・解析方法の開発
本間香貴（東北大学大学院農学研究科）

日本作物学会研究奨励賞（第30回）

- 1) 穂肥重点施肥による暖地向けコムギの高品質・多収栽培技術
水田圭祐（香川大学農学部）
- 2) 寒冷地における乾田直播水稻の収量制限要因と持続的生産に向けた課題の解析
浪川茉莉（農業・食品産業技術総合研究機構東北農業研究センター）
- 3) ダイズ青立ちの発生要因と新品種の多収要因の解明
山崎諒（農業・食品産業技術総合研究機構作物研究部門）

日本作物学会論文賞（第23回）

- 1) 近年の気候変動と土壌水分の変化が丹波黒大豆主要産地の収量に及ぼした多面的影響
分析 熊谷悦史・湊政徳・高橋智紀 日本作物学会紀事 93 (4) : 278-293
- 2) 水稻品種「ひとめぼれ」の粒厚と外観品質・米飯物性との関係および登熟気温による
影響 小舘琢磨・藤岡智明・仲條眞介 日本作物学会紀事 93 (4) : 259-267
- 3) 水田用自動抑草ロボットの活用による雑草抑制効果と水稻収量への影響
中村哲也・浅見秀則・磐佐まりな・藤井義晴・大川泰一郎 日本作物学会紀事 93
(1) : 31-37
- 4) Effect of nitrogen fixation enhancing type SEN1 gene on soybean growth
Aya Shimomura, Yuki Nishida, Shion Yamamoto, Norio Suganuma, Satoshi
Watanabe, Toyoaki Anai, Susumu Arima, Akiyoshi Tominaga and Akihiro Suzuki
Plant Production Science 27(2) : 137-149
- 5) Improving efficiency of ground-truth data collection for UAV-based rice
growth estimation models investigating the effect of sampling size on model
accuracy
Tomoaki Yamaguchi, Kana Sasano and Keisuke Katsura Plant Production Science
27(1) : 1-13
- 6) Palatability characteristics of recent local-brand-rice cultivars
Yuji Matsue, Chinatsu Moriwaki, Shimako Abe and Shoichi Ito Plant
Production Science 27(1) : 38-45

第259回講演会優秀発表賞

口頭発表部門

- 1) 福永莉奈（東京大学大学院農学生命科学研究科）
エアロビック・ライス栽培における雑草群集成長と作物収量の関係
- 2) 井上はるか（東京農工大学大学院農学府）
出穂期から成熟期まで対応できるイネ群落画像を用いた収量推定
- 3) 菅野紀子（東京大学大学院農学生命科学研究科）
乾田直播稲作の深播き技術に関する出芽日予測モデルの構築
- 4) 松村悠生（北海道大学大学院農学院）
絹糸抽出期の糖蓄積動態が多穂型トウモロコシ品種の第2雌穂発達に及ぼす影響
- 5) 赤羽根健生（東洋大学大学院生命科学研究科）
穀物のフィチン酸含量を低減させる薬剤の探索

ポスター発表部門

- 1) 森垣拓巳（北海道大学大学院農学院）
大型動力扇を用いた飼料用トウモロコシの地上部倒伏モーメントの実測と品種間比較
- 2) 荒谷遥香（東京大学大学院農学生命科学研究科）
鉄過剰下でイネ根の鉄プラーク形成に影響を及ぼす生理学的要因とその品種間差異
- 3) 森真菜美（九州大学大学院生物資源環境科学府）
作物への光合成可塑性の付与に関する研究
- 4) 廣田和也（北海道大学農学部）
飼料用トウモロコシにおける葉面積指数推定手法の比較検討
- 5) 尾関妃南（摂南大学大学院農学研究科）

ナガイモ類塊茎におけるアクチンフィラメントの形態的特徴およびデンプン蓄積と塊茎形成における関与

第 260 回講演会優秀発表賞

口頭発表部門

1) 小野みいな (愛媛大学大学院農学研究科)

ハダカムギにおける茎数制限が個体茎数, 硝子率および子実タンパク質含有率に及ぼす影響

2) 細川航輝 (神戸大学大学院農学研究科)

イネ科 C₄ 植物の持つ高温誘導性 Rubisco activase の機能解析

3) Thuy Linh Ha (東京大学大学院農学生命科学研究科)

Effect of ultrafine bubbles priming on seed germination of Adzuki bean (*Vigna angularis*)

4) 山口友亮 (岐阜大学応用生物科学部)

スマートフォンで撮影した動画から再構築した 3D イネ個体の実用可能性

5) 中畠洸太 (岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域)

3D gaussian splatting を用いて取得した 3D データを活用したイネ茎数推定の検討
ポスター発表部門

1) 富田怜那 (名古屋大学農学国際教育研究センター)

窒素施肥量と栽植密度が Gn1a および WFP を導入した NERICA 1 の収量に及ぼす影響

2) 古賀美羽 (北海道大学農学院)

水耕液中の窒素形態に対する BNI 能強化コムギの応答: 圃場での生育向上要因の理解に向けて

3) 篠原有紀 (名古屋大学大学院生命農学研究科)

C₄ 植物シコクビエ維管束鞘葉緑体における同化デンプン粒の初期形成

Allice SARI (東京大学農学生命科学研究科)

4) Variation in mycorrhizal growth response and root morphology among pearl millet genotypes

5) 鈴木健介 (名城大学大学院農学研究科)

耐水性形質であるガスフィルムが冠水環境下の水稻と陸稻の生育に及ぼす効果

10 シンポジウム委員会

1. 第 260 回講演会 (2025 年秋新潟大) シンポジウム実施

2. 日本農芸化学会と日本作物学会の共催シンポジウム実施 (2025 年 3 月@札幌)

3. 日本農学会シンポジウム (2026) にて当学会推薦の大川会員 (大川泰一郎氏) が登壇

4. 第 262 回講演会 (2025 年秋酪農学園大) シンポジウム企画準備と科研費申請

5. 第 261 回講演会 (2026 年春高崎健大) 特別シンポジウム企画検討

11 海外交流推進委員会

(1) 第 259 回日本作物学会講演会にてミニシンポジウムを開催

(2) 若手研究者海外学会出席助成の審査

(3) 韓国作物学会、台湾農芸学会との MoU について

(4) ACSA11 の報告

(5) 共立への ACSA 事務局委託作業

(6) 第 259 回講演会 (3 月) にて海外交流推進委員会を開催.

12 広報・社会貢献委員会

ホームページならびに会員情報システムおよび講演要旨投稿システムを, 庶務幹事・共立印刷の協力を得て運用した.

13 講演会企画委員会

1. 第 259 回講演会 (新潟大学) から第 261 回講演会 (高崎健康福祉大学) の開催準備

2. 第 259 回および第 260 回講演会における対面会議

3. 引継ぎ資料の整理

14 ダイバシティ推進委員会

- (1) 託児所利用支援
- (2) ハイブリッドの活用とオンライン参加者の受け入れ
- (3) 講演会における外国人参加者への配慮と日本人参加者の英語講演への積極関与振興
- (4) 懇親会でのユーステーブル設置
- (5) 若手層との意見交換

15 100周年記念事業準備委員会

- 1) 100周年記念レビュー集の準備
- 2) 土壌肥料学会との合同シンポジウム企画
- 3) 100周年記念式典
- 4) 第263回講演会 2027年3月29日・30日（東北大学）での特別シンポジウムを計画
- 5) 100周年記念事業実施委員会 青木委員長に引き継ぐことになった。

16 将来ビジョンワーキンググループ

答申を報告した

「本答申は、法人化後の学会運営と、100周年以降の時代を見据え、本学会が社会の中で役割を果たし続けるために何が重要となるのかについて、学会の現状と課題を整理することを目的としている」（「1. はじめに」から抜粋）「2. 学会の現状と社会的背景」「3. 他学会・異分野・企業との連携」「4. 国際社会への貢献と連携」「5. 現場・地域社会への貢献」「6. 若手育成とダイバシティ」「7. 将来に向けた提言」

17 日本学術会議

気候変動が作物生産への影響について議論を4回の農学分科会で議論するとともに、第261回作物学会でシンポジウムを開催。

18 (一社)日本農学会

- (1) 第96回日本農学大会の開催。
- (2) 2025年度日本農学会シンポジウムの開催。
- (3) (公財)農学会と2025年度第24回日本農学進歩賞を共催。

19 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

2025年度の委員会は第1回(4月15日)および第2回(12月25日)にweb会議にて開催された。

2. 2025年度会計報告

2025年度決算報告書（一般会計・特別会計）

2025年12月31日

一般会計＋特別会計			
<収入>		<支出>	
前年度繰越金	21,877,467	2025年度支出	29,021,383
2025年度収入	29,511,168	次年度繰越金	22,367,252
計	51,388,635	計	51,388,635

単年度収支

2025年度収入(29,511,168)－2025年度支出(29,021,383)＝489,785

2025年度収支計算内訳(一般会計・特別会計)

2025年1月1日～12月31日まで

科 目	2025年度予算	2025年度決算	増減(決一予)	
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
①特別会計運用収入	630	10,378	9,748	
特別会計利子収入	630	10,378	9,748	
②会費収入	10,010,000	9,825,500	△ 184,500	
一般会員会費収入	9,800,000	9,585,500	△ 214,500	
賛助会員会費収入	210,000	240,000	30,000	
③事業収入	6,001,700	8,016,955	2,015,255	
著者負担金収入	6,001,700	8,016,955	2,015,255	※日作紀の掲載本数、PPS徴収額の増加
④学著協復写料・関連収入	228,030	116,692	△ 111,338	
⑤雑収入	181,840	846,418	664,578	
預貯金利息	440	11,435	10,995	
広告掲載料	125,400	110,000	△ 15,400	
出版物売上ほか	56,000	724,983	668,983	※T&F AI indexing dealsによる増収
⑥科学研究費補助金	3,800,000	3,211,225	△ 588,775	
⑦講演会収入	8,095,500	7,484,000	△ 611,500	
春季講演会(第259回)	4,458,000	4,300,000	△ 158,000	
秋季講演会(第260回)	3,637,500	3,184,000	△ 453,500	
事業活動収入合計 (A)	28,317,700	29,511,168	1,193,468	
2.事業活動支出				
①事業費支出	25,263,790	24,827,593	△ 436,197	
i 学術誌刊行費	13,888,895	15,432,014	1,543,119	
(1)直接刊行費	13,140,158	14,574,000	1,433,842	※Editorial Manager 導入費用(特別会計)含む
(2)送料	501,237	610,514	109,277	
(3)電子ジャーナル(J-Stage)	247,500	247,500	0	
ii 編集委員会経費	392,500	231,813	△ 160,687	
(1)英文誌	342,500	228,000	△ 114,500	
(2)和文誌	50,000	3,813	△ 46,187	
iii 講演会経費	8,222,670	7,432,078	△ 790,592	
(1)春季講演会(第259回)	3,878,275	3,559,704	△ 318,571	
(2)秋季講演会(第260回)	3,413,575	2,936,659	△ 476,916	
(3)講演会要旨集購入費	732,820	723,855	△ 8,965	
(4)演題登録システム費	198,000	211,860	13,860	
(5)その他	0	0	0	
iv 会長幹事経費	100,000	0	△ 100,000	
v 出版部経費	500,000	498,960	△ 1,040	※農作物のみみつ出版費用(特別会計)
vi シンポジウム委員会経費	600,000	0	△ 600,000	※科研費より支出
vii 学費減免審査委員会経費	262,258	161,578	△ 100,680	
(1)学費減免審査委員会	27,000	0	△ 27,000	
(2)学会賞メダル等(特別会計経費)	235,258	161,578	△ 73,680	※副賞変更による支出削減
viii 海外交流推進委員会経費	153,000	122,050	△ 30,950	
ix 広報・社会貢献委員会経費	0	0	0	
x ダイバーシティ推進委員会経費	250,000	0	△ 250,000	
xi ACSA事務局経費	240,000	264,000	24,000	※今年度未払、2026年2月に精算済
vii 雑経費	654,467	685,100	30,633	
(1)農学会分担金	104,467	85,100	△ 19,367	
(2)地域談話会補助金	400,000	450,000	50,000	
(3)農学会委員会経費	0	0	0	
(4)諸資料購入費	0	0	0	
(5)学術会議関連経費	0	0	0	
(6)JABEE関連経費	150,000	150,000	0	
(7)サーバーレンタル料	0	0	0	
②管理費支出(事務局経費)	4,213,910	4,193,790	△ 20,120	
(1)事務通信費	576,271	590,752	14,481	
(2)会議費	10,000	0	△ 10,000	
(3)旅費	100,000	56,075	△ 43,925	
(4)印刷費	30,712	0	△ 30,712	
(5)会員管理システム経費	236,427	283,580	47,153	
(6)人件費	0	0	0	
(7)事務委託費	3,190,000	3,190,000	0	
(8)法人経費	500	0	△ 500	
(9)法人住民税	70,000	70,000	0	
(10)その他	0	3,383	3,383	※講演会アルバイトの労働保険料
事業活動支出合計 (B)	29,477,700	29,021,383	△ 456,317	
当期収支差額 (A)-(B)	△ 1,160,000	489,785		
前期繰越金 (C)	21,877,467	21,877,467		
次期繰越金 (A)-(B)+(C)	20,717,467	22,367,252		

※資金の範囲は流動資産及び流動負債である。

2025年度 特別会計

2025年12月31日

(1) 学会賞基金

項目	収入	支出
前年度繰越金	188,113	
メダル代(技術賞)自己負担購入		0
メダル代(学会賞・奨励賞・技術賞)		161,578
合計	188,113	161,578
次年度繰越金		26,535*

* 2026年度当初に事務局運営改善経費から¥300,000を組替充当

(2) 海外交流基金

項目	収入	支出
前年度繰越金	92,543	
合計	92,543	0
次年度繰越金		92,543

(3) 事務局運営改善準備金

項目	収入	支出
前年度繰越金	8,615,153	
特別会計利子	10,378	
農作物のひみつ		498,960
Editorial Manager 導入費用		660,000
その他		2,860
合計	8,625,531	1,161,820
次年度繰越金		7,463,711

(4) PPS海外投稿促進費

項目	収入	支出
前年度繰越金	181,224	
合計	181,224	0
次年度繰越金		181,224

特別会計繰越金一覧

2025年12月31日

	口座管理	繰越額
(1) 学会賞基金	事務局	26,535
(2) 海外交流基金	事務局	92,543
(3) 事務局運営改善準備金	事務局	7,463,711
(4) PPS海外投稿促進費	事務局	181,224
	合計	7,764,013

3. 2025年度会計監査報告

会計監査報告書

一般社団法人 日本作物学会

代表理事 大川泰一郎 殿

2026年3月5日

日本作物学会会計監査

監事 富山友翔 

監事 水田圭祐 

本会定款第47条に定めるところに従い

① 2025年度本会の決算（自20250101—20251231）

② 科学研究費 国際情報発信強化費の決算

2025年度（自2025/04/01～2025/12/31）中間

について、オンライン会合 Google Meet において監査を実施しました。足立会計幹事より提示された口座残高証明書、証憑、その他の会計書類及び現金について、Google Meet における口頭での質疑応答を交えながら調査し、帳簿などは正確に記載され、誤りなく出納されていることを確認いたしました。

以上をここにご報告申し上げ、会計幹事の労に対して深く感謝の意を表したいと思っております。

4. オンライン講演要旨作成システムワーキンググループ新設 要旨のオンライン作成化について

【背景】

- 現在は、講演会の講演登録システムで発表者が作成した PDF を投稿する形式であるが、講演会ごとに 5～10 件程度の体裁の不備がある。とくに、留学生や海外からの講演者、初めての学生などでトラブルがある。確認と修正作業は主に共立が、著者とのやり取りは講演会事務局が行なっており、それなりに労力がかかる。
- PDF 製作者の PC 環境が多様化する傾向があり、講演希望者の中には PDF が作成できなかったり、適切な様式で設定できない人もいる。
- 他学会では講演要旨の簡素化が進められており、オンライン入力で完結する学会（土壌肥料学会、植物病理学会など）も多い。

【講演要旨の様式の歴史について】

- 講演要旨の様式は、かつては日作紀編集委員会の管轄であったが、PDF による投稿システムを採用した 2000 年代後半に情報管理委員会と広報委員会により、様式や要旨原稿作成要領、PDF 作成要領などが定められ、以後は、講演会ごとに共立で文言の調整をしてきた。
- 講演要旨作成要領は、日作紀別号から講演要旨集になった 2014 年（第 238 回講演会）に改訂され、それ以降はほぼ手が入られていないようである。（現在の文言にも、「別号」などの古い文言が残っている）
- 管轄する委員会が現在は不在。先の幹事会で、講演会企画委員会の方で預かることとした。

（例）第 261 回講演会 原稿作成要領

<https://cropsociety.jp/event/meeting/meeting261/manuscript/>

【講演要旨オンライン入力化の利点】

- 設定により、規格外の体裁（文字数が多い、など）で入力することができないようにできるため、体裁のチェックや編集が楽になる。
- 申請者にとっては、PDF 作成の手間が省ける、演題・著者名・所属は演題登録システムの登録内容をそのまま転用できる、など要旨作成が容易になる。
- テキスト情報を完全に活かした状態で講演内容をデジタルファイル化できる。これにより、講演内容を web 公開することにより web 検索や AI 検索などで研究成果が活用される頻度が上がり、学会の成果活用が促進する。（ヘッダ等に「作物学会」としつこく書いて、作物学会が出典元であることが分かる仕掛けにする）
- 上のデジタルファイルを参加者に活用できるようにすれば、留学生などが翻訳して日本語の演題の内容を把握することができる。また、海外会員などにも発信できる。
- 現在の「講演会要旨集作成要領」は「PDF 作成要領」も含め内容が複雑で、継続的に管理するにはそれなりの労力（管理者の指定、チェック等）も必要となる。まずはアップデートの必要性がある。オンライン化すれば、演題登録システムは講演会ごとに講演会事務局や講演会企画委員会チェックするため、保守・改修がしやすくなる。

【問題点】

- コストがかかる。共立からの提案では、講演会ごとにシステムの改修等が必要となるため、「改修→払いきり」の運用は難しく、講演会ごとに 1 演題あたり 1000 円のコストがかかる」と試算されている。講演会の参加費が、一人当たり 500 円程度値上がりが必要。

※コストについては、要旨集の PDF 配布化に伴い、各講演会あたり 30～45 万円程度のコストカットしている。オンライン入力システムで 20 万円程度のコスト増となる見込み。

- コスト的に要旨集はテキストのみになる見込み。図表の掲載が難しい。会員の中には図表を表示したいというニーズがあるかもしれないので、幅広い意見収集が必要。執行部では、図表を無くすことは、デメリットよりもメリットが上回るのではという意見があった。
- 特殊文字などは、登録者が自分でチェックする必要がある。イタリックや太字、上下付き文字のボタンを設置する予定。
- 今後の進め方は未定。先ずは幹事会（2026 年 3 月）にて意見をもらう。ところからスタート。実装には会員の意見収集と代議員総会の承認が必要になるので、導入は早くても 2027 年春の講演会？

なお、執行部でのメールによる意見交換では、反対意見はなく、早期の導入を目指してはという意見があった。また、オンライン化に向けてはワーキンググループによる事業の分割案も提案された。

【今後の予定案】

- 2025 年度第 2 回幹事会（2026 年 3 月開催）にて意見徴収
- 意見徴収を基に、新執行部へ引継ぎ。様式や入稿方式を含め、要旨集作成要領の刷新を検討する WG を設置する。
- 最短で 2027 年 3 月講演会で実施？

5. 名誉会員の承認

日本作物学会
会長 大川泰一郎 殿

2026年2月27日
日本作物学会四国談話会
会長 宮崎彰

日本作物学会名誉会員への推薦について

日本作物学会会員の楠谷彰人氏を日本作物学会名誉会員に推薦いたします。ご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

推薦理由

楠谷彰人氏は昭和54年10月から平成元年9月まで北海道立農業試験場技術吏員として勤務された後、平成元（1989）年10月から平成26（2014）年3月まで香川大学農学部にて在職し、教育・研究に当たられた。現在、香川大学名誉教授である。

氏は、水稻の登熟性を品種生態学的視点から体系的に解析し、冷温登熟性の品種間差や印度型・日印交雑型品種の独自の登熟特性を、登熟係数、登熟開始温度、籾比重、比重別分布など新規指標を導入して解明した。特に北海道品種においては乾物生産、苗素質、根系分布、穂の特性などが冷温下での登熟性を規定することを明らかにし、理想型品種像を提示するとともに、それを育種事業に具体的に反映し、多くの優良品種の育成に貢献した。

香川県においては「キヌヒカリ」の最適移植期と栽培法を定量的に示し、収量と食味の両立を実現したほか、酒米品種「さぬきよいまい」の育成に成功し、酒米育種と栽培指標としての葉色やタンパク質含有率の有効性を提示した。これらの研究成果は、登熟性研究の深化のみならず、地域農業の振興と品種育成・栽培技術開発に大きく寄与した。

これらの功績に対して、「水稻の登熟性に関する品種生態学的研究－特に、北海道品種の冷温登熟性に関して－」により2006年に第52回日本作物学会賞を受賞され、その成果を品種育成に具体化した「はくちようもち」の育成によって財団法人北農会から「北農賞」が授与されている。また、中国における中国食味品種改良の推進と水稻食味に係る人材育成にも貢献され、その功績により平成20年に中国国家友誼賞を受賞された。

日本作物学会の運営面では、評議員、会計幹事、学会賞選考委員、シンポジウム委員、講演会運営委員長、日本作物学会紀事編集委員会編集委員、編集専門委員、地域編集委員を歴任された。

日本作物学会四国支部においては、日本作物学会四国支部幹事、事務局幹事、評議員、支部長（2004年～2008年）を務められ、支部会の発展に大きく寄与した。これらの功績に対して、平成25年に四国作物学会賞功労賞が授与された。

以上のように、楠谷彰人氏が日本作物学会の「名誉会員」として相応しいと考え、日本作物学会四国談話会の総意として推薦する次第である。

6. 2025 年度事業計画報告

1 代議員総会

2026 年 3 月 27 日に、高崎市労使会館で開催する。2025 年度活動報告、2026 年度会計決算報告、会計監査報告、2026 年度事業計画案、2026 年度予算案等を審議する。

2 会員総会

2026 年 3 月 28 日に、高崎健康福祉大学で開催する。2026 年 3 月 27 日開催の代議員総会で承認・可決された事項を説明する。引き続き、日本作物学会賞（1 件）、研究奨励賞（3 件）および日本作物学会論文賞（6 題）の表彰を行う。

3 講演会

(1) 第 261 回講演会（運営委員長 岡部繭子 氏）：2026 年 3 月 28 日・29 日に高崎健康福祉大学で開催する。

(2) 第 262 回講演会（運営委員長 義平大樹 氏）：2026 年 9 月 16 日・17 日に酪農学園大学で開催する。

4 出版部

(1) 出版部企画図書「農作物のひみつ 毎日の食事が楽しくなる、おもしろ雑学」（2025 年 3 月刊行）の販売促進。

(2) 作物栽培大系（朝倉書店）は、既刊分の販売促進に学会としても協力しながら、未充分について検討する。「雑穀の百科事典」（2026 年刊行予定）の執筆・編集についても引き続き協力する。

(3) 新企画について、過年度までの議論を踏まえて引き続き審議し、決定する。

5 和文誌編集委員会

(1) 会誌（日作紀）の逐次発行。

(2) 和文誌論文賞（第 24 回）の候補論文の選定。

(3) 編集委員会の開催（新・編集委員会への引継ぎ）。

(4) 100 周年記念総説集について検討する。

(5) 「速報」について検討する。

6 英文誌編集委員会

(1) 会誌（Plant Production Science）の逐次発行。

(2) 英文誌論文賞（第 24 回）の候補論文の選定。

(3) 編集委員会の開催（新・編集委員会への引継ぎ）。

(4) 100 周年記念総説集についての準備を進める。

(5) 科学技術研究費（国際情報発信強化（B））の報告書作成と次期申請準備。

7 学会賞選考委員会

(1) 2027 年度日本作物学会賞（第 71 回）、日本作物学会技術賞（第 16 回）、日本作物学会研究奨励賞（第 31 回）、日本作物学会論文賞（第 23 回）、日本作物学会第 261 回、262 回講演会優秀発表賞の選考。

(2) 日本農学賞（日本農学会）、日本農学進歩賞（農学会）、育志賞（日本学術振興会）、ほか各種団体からの学術賞の推薦。

8 シンポジウム委員会

(1) 日本学術会議農学分科会と日本作物学会共催シンポジウム開催（第 261 回講演会にて）

(2) 第 261 回講演会（2026 年春高崎健大）におけるミニシンポジウム開催（2 件）

(3) 第 262 回講演会（2026 年秋酪農学園大）におけるシンポジウムの開催

(4) 第 263 回講演会（2027 年春東北大）におけるミニシンポジウムの公募

(5) 第 264 回講演会（2027 年秋撰南大）におけるシンポジウム企画調整と、これに関連した 2027 年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）の申請

9 海外交流推進委員会

(1) 第 261 回日本作物学会講演会でのミニシンポジウムを開催予定

(2) 若手研究者海外学会出席助成の審査

(3) ACSA Newsletter の発行

(4) 第 261 回日本作物学会講演会にて海外交流推進委員会を開催予定。また韓国作物学会とのミーティング、ACSA 会長、台湾の ACSA 国際委員とのミーティングを同講演会中に開催予定。

10 広報・社会貢献委員会

ホームページならびに会員情報システムおよび講演要旨投稿システムなどは、庶務幹事・共立印刷の協力を得て運用していく。

委員の役割分担などを検討し広報活動の強化を図る。特にアウトリーチ活動などを見直す。

11 講演会企画委員会

(1) 第 261 回（高崎健康福祉大）、第 262 回（酪農学園大）、第 263 回講演会（東北大）の開催準備

(2) 第 261 回および第 262 回講演会における対面会議

(3) オンライン講演要旨作成システム構築への協力

(4) 財務関連の諸問題や各委員会からの提案に対する対応（秋の講演会参加者を増やす、海外や地方の会員・講演会参加者を増やす、懇親会時の若い研究者を踏まえた交流、などの方策検討）

12 ダイバシティ推進委員会

学会における今後のさらなるダイバシティ推進を検討する。

13 100 周年記念事業準備委員会

1) 100 周年記念レビュー集の発行準備を進める

2) 土壌肥料学会との合同シンポジウム内容を決める

3) 100 周年記念式典の準備を行う

4) シンポジウム委員会および講演会企画委員会と協力し、講演会における行事を企画する。

5) 100 周年記念事業に向けて寄付の依頼を行う

14 日本学術会議

継続して、気候変動が作物生産への影響について議論を行う予定。ただし、第 26 期の任期が来年度 9 月までなので、それ以降の議題は検討する予定。

15 (一社) 日本農学会

(1) 第 97 回日本農学大会の開催。

(2) 2026 年度日本農学会シンポジウムの開催。

(3) (公財) 農学会と 2026 年度第 25 回日本農学進歩賞を共催。

(4) 理事・幹事の交替 (2026 年 4 月～2028 年 3 月)

(5) 日本農学会 100 周年 (2029 年) 実行委員会の発足

16 日本技術者教育認定機構 (JABEE)

2026 年 6 月頃に高校生 1~2 年生を対象にした「その先のキャリアパス —農学系を学ぶ— 2026」が開催予定。

7. 2026年度予算報告

2026年度予算

科 目	2025年度決算	2026年度予算	差額	備 考
I 事業活動収支の部				
1.事業活動収入				
①特別会計運用収入	10,378	10,000	△ 378	
特別会計利子収入	10,378	10,000	△ 378	
②会費収入	9,825,500	9,960,000	134,500	※学生会員の徴収率85% → 97%目標
一般会員会費収入	9,585,500	9,720,000	134,500	
賛助会員会費収入	240,000	240,000	0	
③事業収入	8,016,955	7,186,000	△ 830,955	年75報 × 徴収目標98%+システム使用料
著者負担金収入	8,016,955	7,186,000	△ 830,955	
④学著協複写料・関連収入	116,692	135,700	19,008	
⑤雑収入	846,418	465,400	△ 381,018	
預貯金利息	11,435	11,400	△ 35	
広告掲載料	110,000	110,000	0	
出版物売上ほか	724,983	344,000	△ 380,983	※AI indexing deals含まず
⑥科学研究費補助金	3,211,225	3,150,000	△ 61,225	
⑦講演会収入	7,484,000	9,577,500	2,093,500	
春季講演会(第261回)	4,300,000	5,117,500	817,500	
秋季講演会(第262回)	3,184,000	4,460,000	1,276,000	
事業活動収入合計 (A)	29,511,168	30,484,600	973,432	
2.事業活動支出				
①事業費支出	24,827,593	26,239,820	1,412,227	
i 学会誌刊行費	15,432,014	14,051,697	△ 1,380,317	
(1)直接刊行費	14,574,000	13,261,000	△ 1,313,000	※日作紀査読初期コスト減・PPS合本数減
(2)送料	610,514	543,197	△ 67,317	
(3)電子ジャーナル(J-Stage)	247,500	247,500	0	
ii 編集委員会経費	231,813	392,500	160,687	
(1)英文誌	228,000	342,500	114,500	
(2)和文誌	3,813	50,000	46,187	
iii 講演会経費	7,432,078	9,706,577	2,274,499	
(1)春季講演会(第261回)	3,559,704	4,921,520	1,361,816	
(2)秋季講演会(第262回)	2,936,659	4,261,520	1,324,861	
(3)講演会要旨集購入費	723,855	523,537	△ 200,318	※要旨集PDF化によるコスト削減
(4)演題登録システム費	211,860	0	△ 211,860	※講演会運営委員会予算からの支出に変更
(5)その他	0	0	0	
iv 会長裁量経費	0	100,000	100,000	
v 出版部経費	498,960	0	△ 498,960	
vi シンポジウム委員会経費	0	600,000	600,000	※前年は科研費から支出
vii 学会費選考委員会経費	161,578	150,000	△ 11,578	
(1)学会賞選考委員会	0	0	0	
(2)学会賞メダル等(特別会計経費)	161,578	150,000	△ 11,578	※副賞変更
viii 海外交流推進委員会経費	122,050	209,000	86,950	※海外参加者の宿泊費含む
ix 広報・社会貢献委員会経費	0	0	0	
x ダイバシティ推進委員会経費	0	300,000	300,000	※講演会託児室経費
xi ACSA事務局経費	264,000	0	△ 264,000	※ACSA拠出金から支出に切替予定
vii 雑経費	685,100	730,046	44,946	
(1)農学会分担金	85,100	85,100	0	
(2)支部会補助金	450,000	450,000	0	
(3)農学会委員会経費	0	0	0	
(4)諸資料購入費	0	0	0	
(5)学術会議関連費	0	0	0	
(6)JABEE関連経費	150,000	150,000	0	
(7)サーバーレンタル料	0	44,946	44,946	サーバー料金+ドメイン料金(3年契約)
②管理費支出(事務局経費)	4,193,790	4,244,780	50,990	
(1)事務通信費	590,752	626,630	35,878	
(2)会議費	0	0	0	
(3)旅費	56,075	105,000	48,925	
(4)印刷費	0	0	0	
(5)会員管理システム経費	283,580	253,150	△ 30,430	
(6)人件費	0	0	0	
(7)事務委託費	3,190,000	3,190,000	0	
(8)法人経費	0	0	0	
(9)法人住民税	70,000	70,000	0	
(10)その他	3,383	0	△ 3,383	
事業活動支出合計 (B)	29,021,383	30,484,600	1,463,217	
当期収支差額 (A)-(B)	489,785	0		
前期繰越金 (C)	21,877,467	22,367,252		一般会計+特別会計
次期繰越金 (A)-(B)+(C)	22,367,252	22,367,252		一般会計+特別会計

※資金の範囲は流動資産及び流動負債である。

a: 納入状況反映

b: 最近3か年平均程度

c: 2026年度各種委員会予算 参照

2026年度 各種委員会 予算 (委員会等の頭の番号は支出項目番号に対応)

(1)	ii (1) 編集委員会 英文誌	2025年度決算	2026年度予算
支出	会議費	0	10,000
	印刷費	0	10,000
	旅費	0	100,000
	通信費	0	2,500
	人件費	0	0
	英文校閲委託費	0	0
	海外エディター会費	96,000	120,000
	著者負担金	132,000	100,000
	支出計	228,000	342,500
(2)	ii (2) 編集委員会 和文誌	2025年度決算	2026年度予算
支出	ミニレビュー印刷費	0	0
	会議費	0	10,000
	事務費	3,813	20,000
	旅費	0	0
	通信費	0	10,000
	人件費	0	10,000
	その他	0	0
	支出計	3,813	50,000
(3)	v 出版部	2025年度決算	2026年度予算
支出	論文掲載料	0	0
	出版補助	0	0
	事務・通信費	0	0
	支出計	0	0
(4)	vi シンポジウム委員会	2025年度決算	2026年度予算
支出	シンポジウム開催経費		
	講師謝金・旅費	179,450	530,000
	運営委員会経費	35,200	10,000
	昼食代(講演者・シンポ委員会)	3,000	10,000
	参加・懇親会招待費	0	30,000
	シンポジウム委員会経費		
	事務通信費	4,980	10,000
	会議費	4,300	10,000
	ミニシンポジウム開催経費	0	0
	支出計	226,930	600,000
(5)	vii 学会賞選考委員会	2025年度決算	2026年度予算
支出	会議費	0	0
	事務・通信費	0	0
	謝金	0	0
	その他	0	0
	学会賞メダル等 (特別会計経費)	161,578	150,000
	支出計	161,578	150,000
(6)	viii 海外交流推進委員会	2025年度決算	2026年度予算
支出	会議・旅費	0	6,000
	事務・通信費	0	0
	ACSA運営経費	0	0
	ミニシンポ開催費	122,050	131,000
	韓国との交流経費	0	72,000
	その他	0	0
	支出計	122,050	209,000
(7)	ix 広報・社会貢献委員会経費	2025年度決算	2026年度予算
支出	アウトリーチ活動費	0	0
	英文校閲費	0	0
	通信費	0	0
	学会新ホームページ作成費	0	0
	その他	0	0
	支出計	0	0
(8)	x ダイバシティ推進委員会経費	2025年度決算	2026年度予算
支出	講演会託児室経費	0	300,000
	支出計	0	300,000
(9)	xi ACSA事務局経費	2025年度決算	2026年度予算
支出	事務局人件費	264,000	0
	支出計	264,000	0